

【小学校の部】 優秀賞

カメの意地

日田市立日隈小学校 5年

田邊 璃奈



「プール、いやだなあ。」

これは、小学1年生のころの私の口ぐせでした。水泳の授業のある日は、朝ご飯も給食ものどを通りませんでした。そんな私に母は、

「スイミング習ってみる？」

と、聞いてきました。泳げるようになりたい気持ちはあったけれど、とにかく水がこわくて

「習いたくない。」

と、ことわりました。

夏も終わり、水泳の授業がなくなると毎日幸せでした。秋が来て、冬が来て、春になり2年生。

「今年も水泳の授業のたびに泣く？」

と、母。このままじゃだめだと一大決心をしました。

「スイミング習ってみるよ。」

正直、水がこわいという気持ちは変わらず、何で習うなんて言ってしまったんだろうと後かいもしました。

習い始めて1年、やっと水にうくことができました。後から入った友達は次々に合格して上のクラスにうつっていきました。月末行われるテストはいつも不合格。でも、一度もやめたいと言ったことはありませんでした。がんばっても出来ないことがあると、その時初めて思い知らされました。

「ごめんね。月謝高いのに。」

と、言った私に、

「出来ない人の気持ちを誰よりも知ってる璃奈に出来ることは何だろうね。」

私はその時思いました。ここであきらめるのではなくて、こうやったら乗り越えられたということを出出来ない人に伝えたいと思いました。

3年の夏。水泳の授業が楽しくなくなりました。イソップ童話のうさぎとカメのカメだと思いました。おいこされてばかりのカメにも意地がありました。4年の夏。背泳ぎが出来るようになりました。

そしてついに令和になった5年の夏。私はクロールで25メートル泳げるようになりました。今まで一度もスイミング教室を休んだことはありません。帰りの車の中、母に、

「やっと泳げたよ。」

と、言うと、

「かっこいいカメだったよ。」

運転していて、後ろにすわっていた私には見えなかったけれど、母は泣いていました。ここまでの道のりは長かったけれど、あきらめなかった自分をほめたいです。

「何で持っていく物を用意してないの。」

母のかみなりが落ちると、カメはものすごい速さで動きます。

「わすれてたあ。」

自信がついた令和元年の夏でした。